

日本医史学雑誌 第三十九卷第二号 目次

原 著

坪井芳洲筆島津斉彬容体書について……………泉 彪之助……………一三五

漢方医学における大腸と小腸の再検討……………遠藤次郎・中村輝子……………一五〇

御雇教師シユルツエの「外科通論」——明治期教科書使用状況一斑——……………小関 恒雄……………一六九

『耳囊』に記録された民間療法……………浜田 善利……………一七九

研究ノート

精神外科の隆盛と衰微……………藤倉 一郎……………一七七

広 場

杉田玄白の絶筆と河口信順……………川島 恂二……………一三三

ハーバード大学イェンチン図書館の医学関係の和漢医籍……………津谷喜一郎……………一三七

追 悼

三木栄先生をお訪ねして……………長門谷洋治……………一四五

三木栄先生の御逝去を悼みて……………蒲原 宏……………一五二

弔 辞……………宗田 一……………一五五

三木栄先生を偲ぶ……………大塚 恭男……………一五七

三木栄先生略歴	長門谷洋治	二五九
安井広先生の御逝去を悼む	津田進三	二六一

記 事

消 息 「第一回国際中国医学史会議」に出席して	吉元昭治	二六五
日本医学学会神奈川地方会発会総会	杉田暉道	二六六
神農祭(第40回)挙行	小曾戸洋	二六七
美濃大垣の名医・北尾春圃顕彰碑除幕式	土屋伊磁雄	二六七
例会記録 ヴィデオ「呉秀三―狂気の立ち会い人」	岡田靖雄	二六八

紹 介

鈴木昶著『江戸の妙薬』	多留淳文	二六九
リチャード・ゴードン著、倉俣トーマス旭・小林武夫訳『世界病氣博物誌』	山本修三	二七〇
杉立義一著『京の医史跡探訪増補版』	矢数道明	二七一
君塚美恵子編『紀州藩医泰淵の日記』	香取俊光	二七三
諫早医師会編『諫早医史一九九〇年』	山之内外一	二七四
小曾戸洋・真柳誠編・解説『和刻漢籍医書集成』	宗田一	二七六
北小路弘史著『開業医ブルース 医家二十一代のつぶやき』	杉立義一	二七七
小関恒雄・北村智明訳編『クニッピングの明治日本回想記』	高安伸子	二七八
北里研究所附属東洋医学総合研究所刊、医史学文献研究室編『小品方・黄帝内経明堂古鈔本残卷』	猪飼祥夫	二八〇

コンスタンス・ジョエル著・内村瑠美子訳『医の神の娘たち——語られなかった女医の系譜』
三崎 裕子……………二六

〈本号の表紙絵〉

江戸時代の針治療器具と経穴^{つぼ}

図はケンペル (1651-1716) の『日本誌』(付録部分) に載せられた針治療の器具と、経穴を示した人体像である。ドイツの旅行家で医者であったケンペルはオランダ東インド会社の医官となり、1690 (元禄3) 年長崎に到着。翌年と翌々年の2度にわたり、商館長とともに参府旅行に随行し、日本に関する諸分野の研究を行った。本図は疝気治療に対する針治療の記録部分に挿入されたもので、医師であるだけに詳細な観察がなされている。Fig. 1 は銀製の針で、布張りした漆塗りの木箱に数本を収納している。Fig. 3 はその蓋。Fig. 2 は針管で、針を指で弾入するのに用いる。Fig. 5 は金もしくは銀製で、柄は回転に便利なように螺線状に作ってある。Fig. 4 はそれを打ち込み、また収納するための小槌。これは水牛の角製で、槌頭には打針の際の反動を緩和するため、柔軟な革が貼ってあるという、Fig. 6 は疝気治療に用いる腹部経穴9点を図示した日本女性像。髪型・衣装は日本風を模しているが、顔貌・体格がいかに西洋風であるのがかえって印象的である。

(小曾戸 洋)